

# 肺門リンパ節腫脹の年次的推移

——とくに結核とサルコイドーシスとに関連して——

渡辺 博 ・ 中島 丈夫

結核予防会第一健康相談所

受付 昭和 36 年 6 月 26 日

サルコイドーシスは、北欧、米国等では、その浸侵度の高いことが知られているが、わが国でも、最近になつてその報告例がふえ、とくに昭和 29 年ころよりめだつて増加しているといわれている。われわれも以前には欧米に比してわが国にその報告例の少ないことをかねてから不思議に思つていた一員であるが、たまたま当相談所においても、サルコイドーシスと診断される例が近年になつて増加の傾向にあるので、現在の目で以前の症例をふりかへつてみるのもなんらかの意義があらうかと思ひ、過去 15 年間の肺門リンパ節腫脹例をカルテ室から探し出して調査した。比較的資料の揃つているものについて、主に結核とサルコイドーシスとに関連して調査の目的をおき、肺癌、塵肺等の特殊なものは対象から除外した。

## I 肺門リンパ節腫脹の年次的推移 (Table 1)

この表では、古い年代のものでは資料の不十分なために、実数より少なくなつていられると思はれるが、性別では 144 例中女性が 79 例、55% を占め男性より多く、年齢別では 10 才代がもつとも多いが、その年次的推移をみると、昭和 30 年以降になつて 30 才代、40 才代が増加している。

ツベルクリン反応 (以下ツ反) の大きさの記載ある 76 例について、ツ反の大きさの推移をみると、昭和 30 年以降になつて 14 mm 以下の弱陽性ないし陰性者が増加しており、とくに 33 年以降にめだつて増加している。

肺門リンパ節腫脹の左右別をみると、右側例が多くて約半数を占めているが、近年になつて両側腫脹例がふえ、32 年以降になると、偏側例と同数あるいはそれを上まわつて両側例がふえている。

最大リンパ節の大きさは年次的な変動はめだたないが、近年になつてむしろ大きく腫れているものがふえているように思はれる。

## II 両側肺門リンパ節腫脹例について (Table 2, 3)

総数 144 例中、両側肺門腫脹例は、結核 15 例、サルコイドーシス 22 例、その他 10 例、計 47 例であつ

た。

性別では女性が 52% でやはり男性より多く、年次的推移をみると、表 2 のように、結核例と、その他例には年次的推移の特徴はみられないが、サルコイドーシス例は 30 年以降に増加している。

33 年から 35 年までの外来 (集団取扱いを除き) における頻度をみると、33 年度では新規受診者 13,645 名中、両側腫脹例が 11 例、0.08%、そのうちサルコイドーシス例が 4 例、0.03% あり、同様に 34 年度では両側腫脹例が 8 例、0.07%、そのうちサルコイドーシス例が 4 例、0.03% あり、35 年度では両側腫脹すなわちサルコイドーシス例が 3 例、0.03% みられた。以上の結果から、最近 3 カ年間の新規外来受診者中にサルコイドーシスの発見される頻度は、10 万人につき 30 人の割合であつた。

両側腫脹例を年齢別にみると、表 1 のように結核例は比較的若年者に、サルコイドーシス例はそれよりもやや高年者に多くみられる。

表 3 にみられるように、ツ反の大きさは、サルコイドーシスでは全例が 14 mm 以下であるのに対し、結核とその他の群では中等ないし強陽性が大部分を占めている。

最大肺門節が径 20 mm 以上に大きく腫脹している例は、結核 68%、サルコイドーシス 77%、その他 100% の順に多くなつていた。

レ線写真上の合併所見としては、肺内に播種性陰影を有するものがサルコイドーシスに 22 例中 8 例 (46%) あり、結核群とその他群にはみられなかつた。それに反して、肺内に限局性浸潤様陰影を有するものは結核群にのみ 8 例 (58%)、また湿性胸膜炎合併も結核群にのみ 2 例みられた。腫脹リンパ節とは無関係に石灰沈着像を認めたものは結核群になく、サルコイドーシス群に 1 例、その他群に 6 例あつた。逆に経過観察中に腫脹していたリンパ節に石灰沈着を起こしてきた例は結核群に 6 例観察された。

## III サルコイドーシス 22 例について (Table 4)



Table 2  
Bilateral Pulmonary Hilar Lymph-Node Enlargement  
Observed During the Past 15 Years

Years		1946	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	1960	61	Total
Sex	♂								○	△	● △		○ ●	○△ ●●● △	○●● ●●● ●●	●●●		22
	♀					○ ○	○ ●?	○ △		△	○ ● ●	● ●	●	○ ● ○ △	○ ● △	●	△	24
Total						3	2	2	1	2	5	2	3	11	10	4	1	46
Years of age	~ 9					○								○	○○			4
	~19					○○	○			△	○		○●	○○△ △	○△ △	●●●●		16
	~29					●?	○●	○	△	○	●●●●	●	●	●●△ △	●●●●●●	●●●●	△	21
	~39										●	●		●	●			4
	~49																	1

○ Tuberculosis ● Sarcoidosis △ Other diseases

Table 3  
Bilateral Pulmonary Lymph-Node Enlargement

		Tuberculosis 15	Sarcoidosis 22	other diseases
Tuberculin reaction	~14mm	1	12	0
	~29	3	0	2
	30~	4	0	6
	Unknown	7	10	2
BCG-Inj. (+)		10	8	3
Size of enlarged node	~ 9mm	1	2	0
	~19	4	4	0
	~29	7	9	6
	30~	3	7	4
Roentgenological complication	Pulmonary dissemination	0	10	0
	Infiltration	8	0	0
	Pleuritis exsud	2	0	0
	Calcification unrelated to enlarged node	0	1	6
	Calcification to enlarged node	6	0	0

れた。その他の群の消失期間は短く、6 カ月までに 31 %、12 カ月までに 72 %が消失した。

V 考 案

わが国における結核死亡率の減少と初感染結核症の減少はこの 10 年くらいの間にめざましいものがあり、結核に関する全国実態調査の結果をみても、初期結核型が昭和 28 年度には人口万対 25 であつたのが 33 年度に

Table 4  
Initial Symptoms of Sarcoidosis, 22 Cases

Cough	6	Stiff shoulder	1	Arthritis	1
Expectoration	6	Hoarse voice	1	Arthralgia	1
Fever	3	Fatigue	1	Arthritic rheumatism	1
Other lymph-node enlargement	3	Conjunctivitis	1	Parotitis	1
Chest pain	2	Bonesymptom	1	Nosymptom	7
Cold	1	Rash	1	Obscure	1
Top-heavy	1	Weak-sighted	1	Discovered by mass-examination	10

Table 5  
Duration until Hilar Node Enlargement Disappears

	Sarcoidosis		Other diseases		Tuberculosis		Total	
	No.	%	No.	%	No.	%	No.	%
~ 6 months	6	35	4	31	7	9	17	16
~12 months	5	29	6	41	21	29	32	31
~ 2 years	3	18	1	13	30	41	34	33
2 years ~	3	18	2	15	15	21	20	19
Total	17	100	13	100	73	100	103	100
Obscure	5	/	3	/	33	/	41	/

は万対 7 に減少している。結核新発生の減少とともに、非結核性胸部疾患がめだつて増加していることは一般に関心のたかまつているところであり、サルコイドーシスもまたその一つである。

肺型サルコイドーシスの診断は組織学的、免疫生物学的あるいは臨床的な諸検査によりなされるのであるが、そのうち胸部レ線所見とツ反の減弱化の特徴がサルコイドーシス診断への重要な第一歩といえる。胸部レ線所見の分類も、Heilmeyer をはじめ多くの人たちによつてなされているが、その特徴の第一は肺門リンパ節が両側対称性に大きく腫脹する時期のあることである。われわれは、過去における肺門リンパ節腫脹例の中から、サルコイドーシスと診断しても妥当と思われる例がどのくらい含まれているかを調べる目的で本調査を始めたのであるが、表 1 にみられるように、結核性肺門腫脹例には年次的な推移の特徴がはつきりみられなかつたにもかかわらず、全体としては両側腫脹例がふえ、しかもツ反の弱い例および高年者の腫脹例が最近になって増加している。すなわち、サルコイドーシスと診断する例は以前にはほとんどなく、最近、とくに昭和 30 年ころから出現しはじめたことは、一般にいわれているところと一致している。

## VI ま と め

最近 15 年間の外来患者中における肺門リンパ節腫脹の年次的推移をみると、

(1) 性別では女性が男性よりも肺門節腫脹を認める場合が多い。とくに結核ではその傾向がめだつているが、サルコイドーシス群では男性のほうが女性よりも多く観察された。

(2) 年令的には、昭和 30 年以降になつて 30 才代、40 才代の肺門腫脹例がみられるようになった。

(3) 肺門節腫脹例のツ反の大きさは、最近になつて 14 mm 以下の弱陽性ないし陰性者が増加している。

(4) 近年になつて肺門リンパ節が大きく腫れるもの、および両側に数多く腫れる例が増加する傾向がみられる。

(5) 結核性肺門腫脹例のみについてみると、以上のような年次的推移の特徴はみられない。

(6) 以上の結果から、サルコイドーシスあるいは結核以外の肺門リンパ節腫脹例が近年になつて増加していると推定される。

最近 3 カ年間の外来受診者中におけるサルコイドーシス例は 10 万対 30 の割合であつた。

## 文 献

- 1) Heilmeyer, Wurm & Reindell : Der Lungenboeck im Lungenbild', Georg Thieme Verlage, 1958.
- 2) Siltzbach, L. E : Bronchopulmonary Diseases

edited by Emil A. Naclerio, A Hoeber-Harper Book, 1959.

- 3) 佐藤彦次郎他 : 結進, 29 : 96, 昭35.
- 4) 三上理一郎 : 内科, 7 : 220, 昭36.
- 5) 結核の現状と将来の方向, 結核予防会発行, 昭35.

**Pulmonary Hilar Lymph-Node Enlargement Observed During the Past 15 Years. On the relation between tuberculosis and sarcoidosis.** *Hiroshi WATANABE and Takeo NAKAJIMA* (Daiichi Dispensary, Japan Anti-Tuberculosis Association)

1) In recent 15 years, out of 144 cases of pulmonary hilar node enlargement of out-patients at the Daiichi Dispensary, there were 107 cases of tuberculosis, 22 cases of sarcoidosis and 15 cases of other diseases.

2) The 144 cases consisted of 65 cases of males and 79 cases of females. More cases of tuberculosis were found in women than in men, but in sarcoidosis there were 13 men and 9 women.

3) Before 1954, no cases of hilar node enlargement of 30 years of age or more had been observed, but after 1955, such cases have become

to be observed. Out of 144 cases, 7 cases of 30 years of age or more have been observed.

4) Recently in cases of hilar node enlargement, one has become to observe some cases with a tuberculin reaction of 14 mm or less.

5) One has also become to observe an increase of cases of large hilar enlargement and of bilateral hilar enlargement.

6) With regard to tuberculous cases, one has not observed any difference of hilar node enlargement during the past years.

7) As a result of the above-mentioned facts, in Japan one reasonably appreciates that cases of pulmonary sarcoidosis or non-tuberculous cases of pulmonary hilar lymph-node enlargement have recently increased.

In recent 3 years, there have been observed 30 cases of sarcoidosis per 100,000 persons visiting the dispensary.